

# チームオレンジ設置ハンドブック

令和5年3月

三重県医療保健部長寿介護課  
三重県オレンジ・チューター



## 【目次】

1.チームオレンジの整備（概要）	… 3
・ チームオレンジとは	… 4
・ チームオレンジの設置の流れ	… 5、6
・ チームオレンジとコーディネーター	… 7
・ チームオレンジコーディネーター研修	… 8
2.認知症サポーターステップアップ講座について	… 9
・ ステップアップ講座の目的・講師	… 10
・ 受講対象者と講座の開催	… 11、12
・ 使用教材	… 13
3.チームオレンジの種類と支援範囲	
・ 三重県のチームオレンジ設置状況	… 14
・ チームオレンジの種類1	… 15、16
・ チームオレンジの種類2	… 17～25
・ チームオレンジの種類3	… 26～32
・ チームオレンジの支援メニュー	… 33
4.チームオレンジの設置に向けて（まとめ）	
・ チームオレンジの基本コンセプト	… 34
・ チーム立ち上げのポイント・運営の工夫等	… 35、36
・ （参考）チームオレンジに関する研修等の概要	… 37
5.チームオレンジの設置に向けてのヒント	… 38～40
6.参考資料	
・ 三重県オレンジチューター派遣制度	… 41
・ チームオレンジに係る国・県の目標値について	… 42


# 1. チームオレンジの整備（概要）

## ★チームオレンジとは

認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として、市町村がコーディネーターを配置し、地域において把握した認知症の方の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーター（基本となる認知症サポーター養成講座に加え、ステップアップ講座を受講した者）を中心とした支援者をつなぐ仕組み。

## ★チームオレンジ3つの基本

- ①ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれている。
- ②認知症の人もチームの一員として参加している。（認知症の人の社会参加）
- ③認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる。

チームオレンジの類型	特徴	
<b>【第1類型】 共生志向の標準タイプ</b> 活動の拠点の設置して活動		
<b>【第2類型】 既存拠点活用タイプ</b> 既にある地域資源の活動の中に、 認知症の人への困りごとへの対応を組み入れる。	「まちなかサロン」や「認知症カフェ」 「介護予防教室」などをチームにする。	
<b>【第3類型】 拠点を設置しない個別支援型タイプ</b> 活動拠点をつくらずに支援をする。	既存のサロンや認知症カフェなどへ メンバーが訪問し支援等をする。	

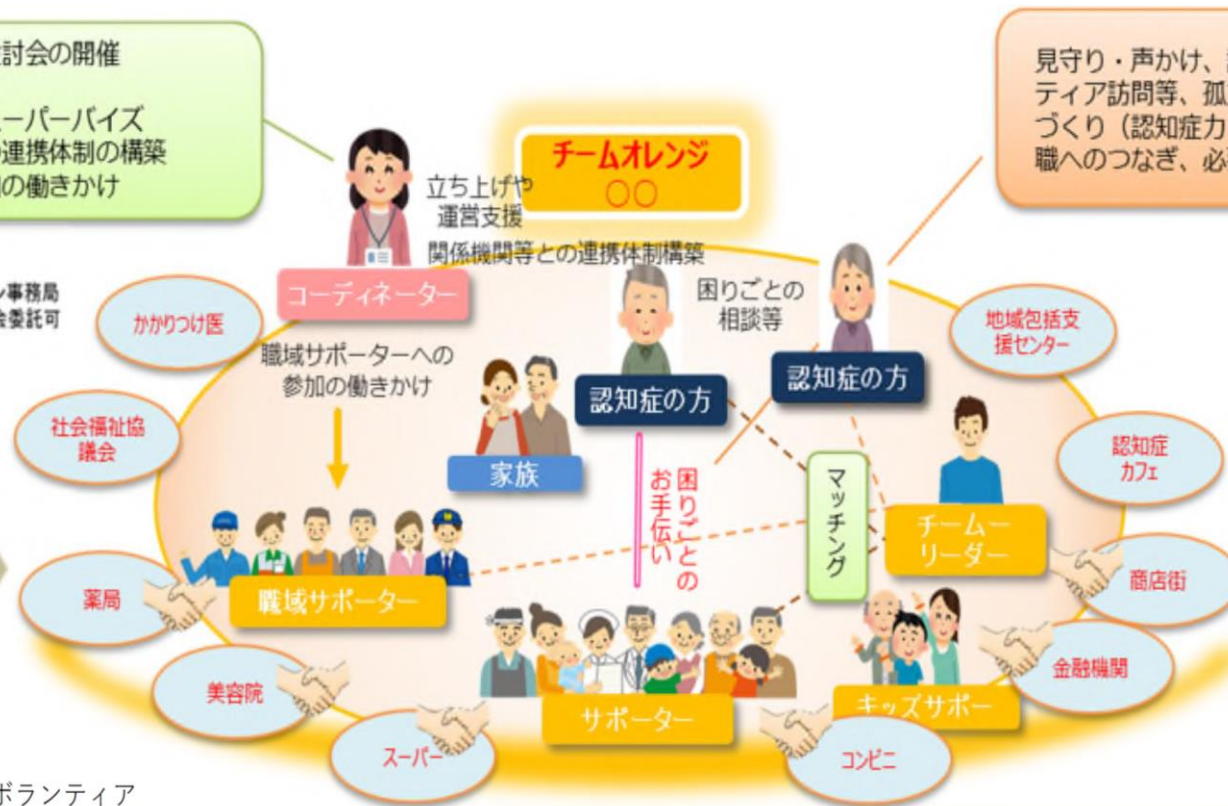
# ・ チームオレンジとは

【 KPI 】 各市町村 1 チーム設置

- ・ 仕組みづくりに関する検討会の開催
- ・ チームの立ち上げ支援
- ・ チームの運営に対するスーパーバイズ
- ・ 地域の企業や事業者との連携体制の構築
- ・ 職域サポーターへの参加の働きかけ

見守り・声かけ、話し相手、外出支援、ボランティア訪問等、孤立しないための関係づくり（認知症カフェの同行・運営参加）、専門職へのつなぎ、必要な窓口の紹介等

- 【ステップアップ実施主体】
- 市町村認知症サポーターキャラバン事務局
  - 市町村キャラバン・メイト連絡協議会委託可
- (ステップアップ研修)



※チームオレンジによる支援はボランティアで行うことが望ましい。(地域医療介護総合確保基金を活用した介護人材確保のためのボランティアポイントの仕組みの活用も可能)

## チームオレンジ三つの基本

- ① ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれている。
- ② 認知症の人もチームの一員として参加している。(認知症の人の社会参加)
- ③ 認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる

# ・市町におけるチームオレンジの設置のながれ

★行政担当者等（チームオレンジコーディネーター）を中心とし、

設置を行う。

→担当者は、市町の認知症の人のニーズを把握し、既存の地域資源を活用するなどして、チームオレンジを設置。

★市町は、チーム員に対しステップアップ講座を実施。

→チームの活動内容等の説明。

## 【ステップアップ講座】

○認知症の人への接し方などチームオレンジで活動するために必要な知識、対応スキルに関する講義を実施する。

○チームオレンジの支援活動の内容等に応じ、地域の実情に応じて実施される。

○チームオレンジへの参加を希望する認知症サポーターが受講対象。 5

# ・市町におけるチームオレンジの設置のながれ

## 【設置のながれ(一例)】

	内容	備考
段階 1	全体スケジュールの作成	チームオレンジコーディネーター等が中心となって作成
段階 2	実態把握	(把握対象) ①当該地域の認知症の方の状況 ②支援ニーズ ③社会資源状況 (チームオレンジ構成員等)等
段階 3	チームオレンジの説明	(説明の対象) 住民サポーター、職域サポーター、地域住民等
段階 4	(実態に即した) チームオレンジの編成・ (拠点を作る場合) 拠点予定場所の設定	
段階 5	チームオレンジ構成員の <u>ステップアップ講座</u>	(対象者) <u>チームオレンジへの参加を希望する認知症サポーター</u>
段階 6	チームオレンジの立ち上げ	
段階 7	チームオレンジ運営のバックアップ	

★行政担当者等 (チームオレンジコーディネーター) が中心となってスケジュールを考案

# ・ チームオレンジとコーディネーター

## ○コーディネーターとは

チームオレンジ整備するにあたって中核的な役割を担う

コーディネーターを養成する → 市町村に一名

認知症地域支援推進員兼務可能

## ○コーディネーターの役割

### ①チームオレンジの立ち上げ

- ・チームオレンジの立ち上げ支援
- ・チームの編成支援
- ・生活関連企業等とのつながりを強化
- ・各専門機関との連携
- ・(個人情報保護法に即した)個人情報の適切な管理・助言

### ②ステップアップ講座の企画・開催

- ・ステップアップ講座実施者である市町村サポーターキャラバン事務局と共同する

### ③チーム運営に対する助言等

- ・認知症の人の困りごと支援とサポーターのマッチング支援
- ・定例会の開催や運営に関する助言等

### ④自治体管内のチームオレンジネットワーク会議の構築

### ⑤チームリーダーを兼ねる場合

- ・認知症の人や家族の困りごと支援とサポーターのマッチング



## ※参考情報

# ・ チームオレンジコーディネーター研修

目的	チームオレンジの効果的な編成方法や運営のノウハウ等を伝達
対象者	コーディネーター、チームオレンジのチームリーダー等
主な講師	オレンジ・チューター
実施者	都道府県
補助金	地域医療介護総合確保基金（介護従事者確保分）
主な内容	<ul style="list-style-type: none"><li>I オリエンテーション</li><li>II 認知症サポーターの活動促進とチームオレンジ</li><li>III チームオレンジの仕組み</li><li>IV チームオレンジとコーディネーター</li><li>V チームオレンジの立ち上げ</li><li>VI 支援メニューと支援範囲等の取り決め</li><li>VII ステップアップ講座の実施について</li><li>VIII 演習（GW）・発表</li></ul>



## 2. 認知症サポーターステップアップ講座について

チームオレンジメンバーとなるには

ステップアップ講座の受講が必須条件

認知症サポーター養成講座で学んだ事を土台に

実践の場で必要となる認知症の知識

身近に交流し必要に応じて手助けするための対応スキルを修得  
することを目指す。

ステップアップ講座の実施主体

市町村(都道府県)認知症サポーターキャラバン事務局

市町村(都道府県)キャラバン・メイト連絡協議会等への委託も可。

コーディネーターは、

市町の認知症サポーターキャラバン事務局と連携して開催企画する。

# ・ 認知症サポーターステップアップ講座について

## ○ ステップアップ講座の目的

- 近隣互助活動をする認知症サポーター  
チームオレンジの趣旨を理解

近所づきあい、友人づきあいの延長戦上で認知症の人への適切な接し方を心得ていることが不可欠

- 活動しようとする認知症サポーター  
チームオレンジの目的・意義を理解

認知症の人を実際に支援するための知識・技能を必要に応じて身につける。

## ○ ステップアップ講座の講師

- キャラバンメイト、またはこれに準ずる者
- 認知症地域支援推進員
- 保健師
- チームリーダー
- オレンジコーディネーター
- オレンジチューター
- 実施市町村が講師として認める者

ステップアップ講座のテーマに応じて選定する。

# ・認知症サポーターステップアップ講座について

## ○受講対象者と講座の開催

認知症サポーター養成講座修了者

(チームオレンジメンバーまたはメンバー予定者)

## チームオレンジ

立ち上げ時……必ずメンバーを集めて開催する

立ち上げられている時……早急に開催する

(活動に必要な知識・技能を習得する講座を修了している場合簡略化可能)

活動開始後も継続的に随時、開催することが望ましい。

市町村等が活動希望者を募って開催し、チームを立ち上げる方法も

ステップアップ講座の受講にはサポーター養成講座の受講が必須



# ・ 認知症サポーター ステップアップ講座について

## ○ 受講対象者と講座の開催

**メンバーの経験、今後の活動目標等を考慮し柔軟に構成**  
受講対象者の実状、チームオレンジの活動内容等を考慮し、  
設定をする。

### ● 活動開始時

チームメンバーがチームオレンジを十分に理解していることが重要。

認知症サポーターが地域で認知症の症状の理解、対応法を習得できるような  
講座の実施。

### ● 活動開始前、活動中のメンバーを対象

受講しやすいように研修内容を分割して順次行うことも可。

# ・ 認知症サポーターステップアップ講座について

## ○使用教材

研修内容に応じて自治体事務局ごとに選定し、用意する  
使用する際は、入力専用Webを通して申し込み

☆『チームオレンジ運営の手引き』

★『認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン』

★『認知症の理解～「つなぎ」のための情報整理』

★『認知症サポーター ステップアップ講座 教材1 認知症の理解を深める』

★『認知症サポーター ステップアップ講座 教材2 認知症の発症リスクを減らす』

★『チームオレンジステップアップ教材 高齢者の感染症予防と熱中症予防』

★『チームオレンジステップアップ教材 体力・知力で地域との交流』

★『チームオレンジステップアップ教材 いざというときの救急蘇生法』

(全国キャラバン・メイト協議会より ★印:有償頒布 ☆印:無償頒布)

# ・三重県のチームオレンジ設置状況

★令和4年3月末現在、**6市町**にて設置済み

	類型	活動人数	支援内容	チーム数
<b>津市</b>	第3類型	26名	認知症カフェ支援、普及啓発 サポーター養成、個別支援	1
<b>伊勢市</b>	第2類型	58名	見守り、話し相手、 地域での声掛け	8
<b>桑名市</b>	第2類型	23名	見守り支援	1
<b>鈴鹿市</b>	第3類型	54名	個別支援、既存の施策への協 力 周知活動	1
<b>亀山市</b>	第2類型	29名	認知症普及啓発	1
<b>玉城町</b>	第2類型	89名	普及啓発、既存の施策への協 力 個別支援	1

# 3. チームオレンジの類型と支援範囲

## 第1類型 「共生志向の標準タイプ」

### \* 地域の交流拠点(拠り所)を設置

- ・サポーター等の活動の拠点であるとともに、認知症の人と家族などが、いつでも訪れたりできる普段からの居場所(より所)として存在
- ・サポーター以外の多様な人々の参加が前提(地域交流の場)



#### 《メリット》

- ・認知症の人の社会参加へのハードルが低くなる
- ・共(伴、友)に集うことにより、サポーターと認知症の人との「顔見知り」「なじみの関係」が成り立ちやすい。
- ・定期的に来所されることにより、利用者の状態がわかりやすい  
→困りごととマッチングの支援がわかりやすい
- ・顔見知り→日々の支援に繋がりやすい

#### 《デメリット》

- ・簡単には場所が見つからない(居場所には雰囲気が必要)
- ・運営管理が必要
- ・維持費がかかる
- ・地域のより所なので、どんな人でも参加が可能

### 3. チームオレンジの類型と支援範囲

#### 第1類型「共生志向の標準タイプ」発足の例

まず、地域の認知症の人と家族のニーズを把握しましょう。

01

地域の交流拠点を  
地域の古民家カフェのレンタルスペースに設置

---

02

地域住民を含むチーム員に  
ステップアップ講座を開催

---

03

本人のニーズ、チーム員にできる活動の情報共有

---

「買い物がしたい」  
「畑に行きたい」etc.

「○曜日、○時間程度の付き添いが可能」  
「囲碁・将棋・チェスの相手ができる」etc.

04

実際の活動を展開

---



## 第2類型「既存拠点活用タイプ」 \* 既にある拠点の活用

- ・ 既にある「まちなかサロン」「認知症カフェ」「介護予防教室」などをチームオレンジとして活用する。
- ・ 運営を法人等がしている場合は、住民主体サポーター主体の運営へシフトしていくために、法人との協力関係の整理が必要となってくる。
- ・ 法人にも職域サポーター（住民サポーター）としてチームオレンジの一員として活動する。

### 《メリット》

- ・ 既に既存のより所（拠点）がある。
- ・ 運営管理してくれる人がすでに存在している。
- ・ より所（拠点）をつくるハードルが下がる。
- ・ チームオレンジのメンバーも気軽に参加できる。
- ・ 顔見知り→日々の支援に繋がりがやすい。



## 《デメリット》

- ・コーディネーターと既存の施設(法人)との連携が必要。
- ・三つの基本の整備をしっかりとしておく必要性が出てくる。

### ● チームオレンジの三つの基本

- 1, ステップアップ講座修了者及び予定のサポーターでチームが組まれている
- 2, 認知症の人もチームの一員として参加している
- 3, 認知症の人と家族の困りごとを早期から継続的に支援できる

### ・住民主体になりにくい

- ・既存の拠点(法人など)と主旨が一致しないと運営がうまくいかない場合もある。
- ・本人や家族のニーズがそこで完結できるわけではない。

## 第2類型「既存拠点活用タイプ」発足の例

まず、地域の認知症の人と家族のニーズを把握しましょう。

01

地域の交流拠点となっていた  
認知症カフェで本人のニーズを把握

---

02

地域住民を含むチーム員に  
ステップアップ講座を開催・チームオレンジ発足

---

03

チーム員にできる活動の情報共有と役割分担

---

04

実際の活動を展開

---

「○曜日はAさん・Bさんで付き添う」etc.

# ～県内のチームオレンジ活動内容～

## 【伊勢市】 チームオレンジ 《第2類型》

集いの場やカフェ、会食会などを拠点に、認知症のある利用者の見守りや話し相手、地域の中で声かけなどの支援を行っている。

立ち上げ時期	チームオレンジ名
R元年10月	家族の会つどい
R元年10月	オレンジカフェほほえみ
R元年10月	認知症カフェあこや
R元年11月	認知症カフェさくら
R3年2月	憩いの家たまちゃん
R3年6月	みなとカフェ
R3年7月	オレンジつどい
R4年3月	北浜まちづくり協議会 地域福祉委員 会
R4年6月	いきいきサロンひなたぼっこ



### みなとカフェ

お茶を飲みながら、ゆっくり語り合ったり、運動したりして心も体もリフレッシュしませんか？

★実施日時：毎月最終火曜日 10時～12時  
 ★場 所：みなとふれあいセンター2階（住所：伊勢市神港262-1）  
 ★参加費：1,000円（飲み物代）  
 ※参加条件：●みなとカフェに一人でお越しいただける方  
 ●家族と一緒に参加できる方  
 （当日飛び込み参加も可能です。）  
 ※マスク着用でお越し下さい。

主 催：オレンジ（伊勢市ボランティアセンター登録団体）  
 協 力：社会福祉法人 伊勢市社会福祉協議会

---

**内 容**

10:00～ 健康チェック（希望者のみ）  
 10:30～ レクリエーション・体操  
 11:00～ 座談会：お茶を飲みながら  
 皆で盛り上がりましょう♪  
 ※認知症の方、家族の方の参加も大歓迎です。

お申込み・お問い合わせ先  
 オレンジ 担当：〇〇まで  
 お電話ください。  
 電話：〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇  
 （不在時に折り返し連絡させていただく場合がございます。）

**公共交通機関利用**  
 近鉄伊勢市駅、JR伊勢市駅から三重交通8番乗り場の一色バスに乗り三交神社バス停下車、徒歩3分。




【みなとカフェ】  
 ステップアップ講座の様子。  
 カフェに認知症が心配な方が来た場合の対応や、どんな認知症カフェにしたいか等意見交換を実施。

# 【伊勢市】 チームオレンジ 《第2類型》

## 【オレンジつどい】

- 生活支援コーディネーターの声かけで、要支援者を中心とした地域住民の集いの場である「集いの場・みやがわ」のスタッフがステップアップ講座を受講し、チームオレンジを結成。
- 集いの場の利用者だけでなく、一緒に活動するボランティアの中にも認知症の方がいます。
- 日常の地域の活動の中で認知症の方への見守りや声かけ等を実施

★令和3年5・6・7月にステップアップ講座を開催



★日頃の集いの場の様子



# ～県内のチームオレンジ活動内容～

## 【亀山市】 チームかめやま 《第2類型》

【支援内容】 認知症普及啓発

【活動地域】 亀山全域

【活動内容】

- 定期的にチーム員が集まり、意見交換を実施
- 近所の集まりや道ですれ違った際に声かけを実施
- アルツハイマー月間の取り組みで、  
講座や介護者のつどいにサポーターとして参加
- 図書館において認知症の普及啓発活動を実施予定

★県チューター派遣制度を利用。

→チューターと今後のチームオレンジの活動につき検討を行っている



### ○図書館での普及啓発活動のチラシ

#### 心いきいき回想法

～一緒に懐かしい話を花を咲かせましょう～

昭和の頃の生活用品を見ながら、当時の遊び、流行った音楽、銀幕のスターなど、思い出を語り合うことで共感しあい、心を元気にしましょう。

回想法の考え方やポイントについて作業療法士の方にお話しいただきます。

とき  
令和5年

1月30日

13:30 ~ 15:30

\*ご都合の良い時間にきてください。  
\*出入り自由です。

ところ

亀山市立図書館1階多目的室

御幸町318番地1 (JR亀山駅前)

クルクルレインボー  
も作れるよ!



『回想法』とは・・・  
経験したことを楽しみながら語り合うことで、脳を活性化させ、心を元気にすることです。

入場無料!  
申込不要

- ◆主催 チームかめやま
- ◆協力 亀山第1・第2地域包括支援センター  
カナリアチーム

- ◆チームかめやま事務局・問合せ  
亀山市健康福祉部地域福祉課  
高齢者支援グループ

0595-84-3312



※コロナウイルス感染  
防止にご協力ください。

・発熱や風邪症状が見られる方は参加の自粛をお願いします。  
・マスク着用とソーシャルディスタンスの確保にご協力ください。

## 【玉城町】 サポーターさくら 《第2類型》

### ●立ち上げまでの経緯

玉城町では認知症サポーター「サポーターさくら」が平成20年から活動。令和4年11月13日の認知症予防講演会において、チームオレンジ宣言をした。

### 支援内容

#### (1) つどい場「協」

週3回開所。

開所時間は誰でも自由に参加可能。手芸や将棋等好きな活動をして過ごす。

#### (2) 家族会の実施

2カ月に1回開催。本人や家族が集まる機会を提供している。

#### (3) 一般介護予防事業への参加

サポーターとして介護予防教室運営に参加。

#### (4) ほか

認知症サポーター養成講座の開催、ケーブルテレビを活用した啓発劇の実施、高齢者見守り・声かけ訓練等への協力

～県内のチームオレンジ活動内容～

【玉城町】 サポーターさくら 《第2類型》





～県内のチームオレンジ活動内容～

# 【桑名市】精義おたすけ隊チームオレンジ 《第2類型》

## 認知症本人の見守り

### →お助け隊例会で話し合いを実施

－本人の情報共有及び見守りについて

### →認知症型支援調整会議の開催

－地域の見守り体制について

各関係機関で話し合い、支援内容を決定

## 【具体的支援内容】

- ①本人が立ち寄りのお店との連絡体制の構築
- ②妻の負担軽減への介護事業所との連携
- ③チームオレンジとして、本人への声掛け
- ④商店街の協力を得る
- ⑤自治会との情報共有

※現在、チームオレンジに協力いただいていた認知症の方が入所してしまったため、チームオレンジとしては活動していない。

論点：地域での見守り体制をどう築いていくか



・地域ケア会議終了後、おたすけ隊会長が会員へLINEで本人の見守りを依頼

→ 次回の例会で本人さんの詳細情報を共有しおたすけ隊でも見守り

## 第3類型「拠点を設置しない個別支援タイプ」



### \* 活動拠点を設置しないタイプ

- ・活動の拠点が確保できない場合でも実施できる方法
- ・既存のサロンや認知症カフェなどへチームメンバーが訪問し活動していくことも考えられる。

### 《 メリット 》

- ・目的が明確化される。(拠点を作ることが目的になってしまうといけない)

### 《 デメリット 》

- ・サポーターや認知症の人や家族との交流の機会が少ないので、困りごとと支援のマッチングのための情報収集と調整に手間が生じる可能性がある。
- ・チームメンバー同士のコミュニケーションがとりづらいので、LINEやメール等を活用した運営が望まれる。
- ・チームリーダーの力量が求められる。

## 第3類型「拠点を設置しない個別支援タイプ」発足の例

まず、地域の認知症の人と家族のニーズを把握しましょう。

01

地域住民を含むチーム員がステップアップ講座を受講  
チームオレンジとして名簿登録・発足

---

02

チームオレンジに病院退院時介護保険でフォロー  
できない本人の活動支援案件の相談が入る

---

03

チーム員で活動可能なメンバーを募る

---

04

実際の活動を展開

---

「散歩に付き添ってほしい。  
デイサービスの利用の前後の時間に、見守って  
欲しい。」etc.

# 【津市】 チームオレンジ・あしたば

《第3類型》

グループ名	内容
○認知症カフェ支援グループ	現在津市内にある認知症カフェの活動支援および必要に応じてグループメンバー自ら認知症カフェを開催する等、認知症カフェの地域への定着を図っていきます。
○認知症普及・啓発グループ	認知症に対する地域の理解を深める活動、啓発媒体の作成、普及啓発の企画をしていきます。
○認知症サポーター養成グループ	認知症サポーターへの勧誘やグループメンバーでの認知症サポーター養成講座の開催を通じて、多世代の認知症理解を広めていきます。
○個別支援グループ	認知症の人やその家族の困りごとに対して、個別支援（例：話し相手、散歩の同行、定期的な見守り、趣味活動継続のお手伝い等）を行っていきます。



## 「チームオレンジ・あしたば」 全体会の様子

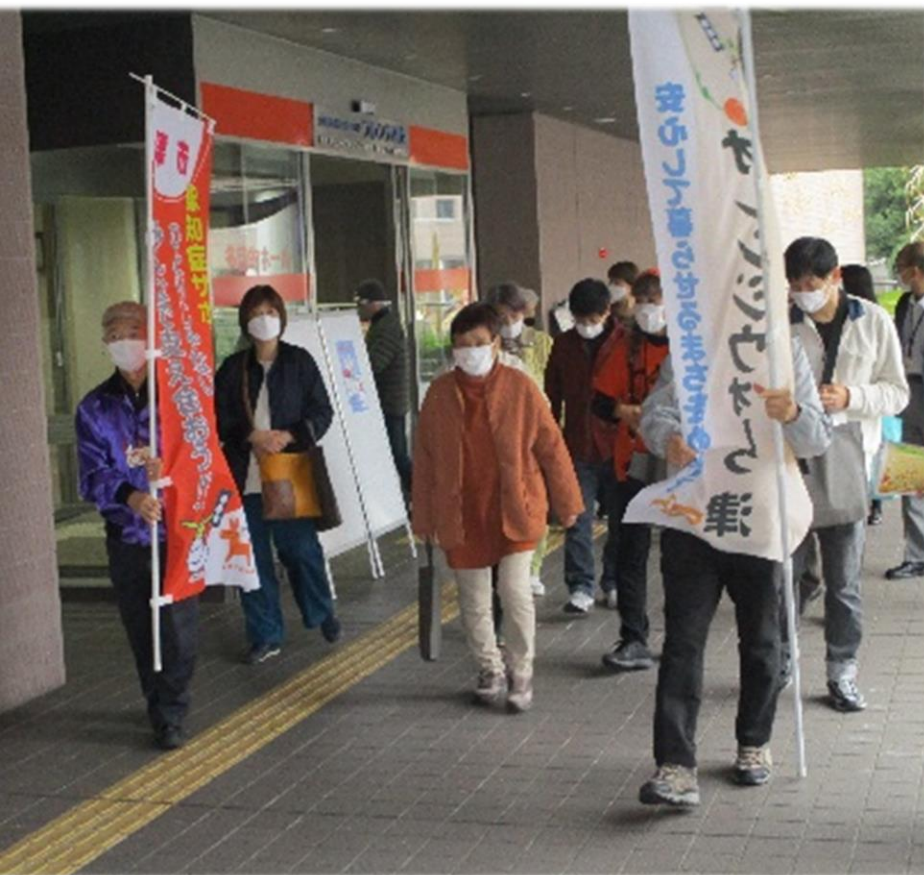
→上記グループに分かれて、こういった活動をしていくのか、今後の活動の方向性を話し合っています。

# 【津市】 チームオレンジ・あしたば

《第3類型》

## ★オレンジウォーク津

認知症啓発を目的として、「オレンジウォーク津」を開催。  
非営利市民活動団体「だいじこファミリー」と共催で実施。  
三重県総合文化センター、Miemu周辺を歩きながら、「認知症にやさしい街づくり」への理解や「認知症サポーター」への参加呼びかけを行った。



日 時: 令和4年11月23日(祝)

10:00～11:30

場 所: 三重県総合文化センター

「フレンテみえ」3階セミナー室C

参加者: 33名(その他 スタッフ: 7名)



## ～県内のチームオレンジ活動内容～

### 【鈴鹿市】チームオレンジ鈴鹿 《第3類型》

○認知症のご本人・ご家族を「オレンジ」、サポートをする方々を「フレンド」と称して活動実施

#### 【1】個別支援

○既存の社会保障サービス等では対応が難しいオレンジのニーズをフレンドと共に実施

(例)畑仕事、簡単な軽作業、工作 等

○場所は、自宅・社協の会議室 ○通称「夢を叶える活動」

#### 【2】グループ活動支援

##### (1) 既存の認知症関連事業へのチームオレンジの協力

###### ①若年性認知症者の会「レイの会」の方による洗車活動

若年性認知症の方の社会参加活動として社協の公用車を洗車。

フレンドはサポートを行う。

###### ②おれんじルーム

認知症本人とそのご家族が参加。折り紙やすずか踊り、お話を共にする。専門医も参加。

###### ③スローショッピングの日

誰もが安心して買い物ができるように「おもいやりレジ」「おもいやりカフェ」を設置。

マックスバリュ東海株式会社と協力して実施。フレンドによる買い物の付き添い(1店舗)。

###### ④認知症カフェ「オレンジカフェ ベル」

イオン薬局主催の認知症カフェ。今後の支援内容等をフレンドと共に検討予定。

##### (2) 周知活動グループ

イベントや各活動に使用するグッズ(オレンジロボのマスコットやADイベントの啓発物等)の作成

～県内のチームオレンジ活動内容～

# 【鈴鹿市】 チームオレンジ鈴鹿 《第3類型》

## ○若年性認知症者の会「レイの会」の方による洗車活動



～県内のチームオレンジ活動内容～  
【鈴鹿市】 チームオレンジ鈴鹿 《第3類型》

○スローショッピングの日の様子





## ・ チームオレンジの支援メニュー

- 外出支援(通院や買い物、散歩、お墓参り、旅行)
- 見守り・声かけ
- 話し相手
- 認知症の人への居宅へ出向く,出前支援
- 交流拠点の運営
- 子供や学生の認知症に関する理解促進のため、子ども・学生向けの認知症サポーターを地域で育てていく



## 4. チームオレンジの設置にむけて（まとめ）

### 1) チームオレンジの基本コンセプト

- 認知機能が低下しても、**仲間として迎え入れて付き合ってくれる仲間**（チーム）がいるという安心感

- 認知機能の低下が引き金となって、閉じこもるようになり廃用性症候群が悪化していくことを予防するため「**自分の思いを汲んでくれる**」

交流の場、居場所を早期に提供

（社会と繋がることも認知症の薬の一つ）

- 孤立による認知機能の悪化を先送りして、**住み慣れた地域においてできる限り継続して暮らせる機会**の提供

- こうした活動で住み慣れた地域で生きがい活動を創出

# ・ チームオレンジの設置にむけて（まとめ）

## 2) チーム立ち上げのポイント・運営の工夫等

### ① 活動準備の段階（主に行政・包括支援センター）

- 初期の認知症の人の暮らしぶりなど地域課題の把握、サポーターの中で認知症の人や家族への支援に関心のある人の把握を通して、地域課題と社会資源マッチングを検討
- 地域課題への解決へ、共に取り組むきっかけづくりとして、研修会や語らいの会など活用
- 認知症サポーター養成講座では第1ステップの正しい知識を持つことに併せ、第2ステップとなる認知症の人への支援事例と若年性認知症の人の社会とのつながり方を紹介し、地域活動へ意識付け

### ② 活動展開の段階（チームオレンジ）

- 「集う」ことを目的とするのではなく、「集う」という手段を通じて「楽しく参加する」ことにより、孤立化を予防する交流の場を目的として企画運営する
- 誰でも気軽に参加できるようにし、「楽しむ」「学ぶ」「相談できる（相談支援）」という不可価値をもつ
- 参加しやすい集いの場として、高齢者や若年性認知症の診断を受けた方にもなじみの介護予防拠点施設・地域の空き家を活用

# ・ チームオレンジの設置にむけて（まとめ）

## 2) チーム立ち上げのポイント・運営の工夫等

### ③ 参加意欲を継続する工夫

- 認知症の人を特別視するのではなく、一般住民として参加しやすい雰囲気を維持する
- 「集う」ことを通じて、各参加者が何をしたらよいのかを気づけるように配慮する
- 必要な場合は振り返りの時間をもうけて集う人たちの状況やかかわり方、今後の対策について共有する
- 「認知症の人」ではなく、認知症と共に生活していく「一般住民」という視点で捉え、認知症の人やその家族だけでなく、地域住民が参加しやすいような取り組みの工夫をする
  - （例） 毎週の決まった曜日に開催
    - 自分の居心地の良い空間を確保（スペースはいくつもあった方がよりベター）
    - これまでの関係性の中でマッチング（寄り添いサポート）
    - 出来ることはどんどんやってもらえるような配慮を忘れない
    - 地域の人の出番（得意なことを披露できるスペースがある）
    - お互いに声をかけ合い、傾聴
- 相談支援や情報提供を行い、必要に応じて専門機関につなぐ（リンクワーカー）
  - ※ 専門機関とは… 地域包括支援センター、認知症初期集中支援チーム、医療機関など

# ・ (参考) チームオレンジに関する研修等の概要

NO	研修等	目的	対象者	主な講師	実施者	補助金等
1	オレンジチューター研修	チームオレンジコーディネーター研修の講師を要請	都道府県が推薦する者	研修実施機関が選定する者(現在は全国キャラバン・メイト連絡協議会)	研修実施機関	認知症サポーター等推進事業
2	チームオレンジコーディネーター研修	チームオレンジの効果的な編成方法や運営のノウハウ等を伝達	コーディネーター	オレンジ・チューター	都道府県	地域医療介護総合確保基金(介護従事者確保分)
3	ステップアップ講座	チームオレンジのメンバーを養成	チームオレンジへの参加を希望する認知症サポーター	キャラバン・メイト等	都道府県	介護保険事業費補助金
					市町村	地域支援事業交付金

# 5. チームオレンジ設置にむけてのヒント

## チームオレンジの設置に向けて、県に寄せられた意見などから、設置に向けてヒントになると感じたこと

カテゴリー	課題や疑問点など	ヒント
<ul style="list-style-type: none"><li>・ニーズの把握</li><li>・ニーズとマッチング</li><li>・多機関との連携、協働</li></ul>	多くの方は介護サービスにつながっている。しかし、つながるまでに認知症の人のニーズや困りごとを把握することが出来る機関や専門職などから、認知症の人のニーズを聞くことが可能か。	例えば、医療機関の回復期病棟に入院中の認知症の人のニーズを作業療法士など専門職は把握している。 退院時に介護保険サービス以外に、認知症の人のニーズをつなぐ先としてチームオレンジが考えられる。
<ul style="list-style-type: none"><li>・ニーズとマッチング</li></ul>	認知症の人のニーズと、サポーターのできることをどのようにマッチングしたらいいか。	認知症カフェに参加される方は何かしたいことや、得意だったこと等がある。（囲碁、将棋、お料理、手仕事など） 例）サポーターのなかにパン作りが得意な人がいて、パン好きの認知症の人とともにパン作りをした。
<ul style="list-style-type: none"><li>・認知症カフェとチームオレンジ</li></ul>	認知症カフェは29市町すべてにあるが、認知症カフェをチームオレンジにするには、どういったことが必要か。	<ul style="list-style-type: none"><li>・認知症カフェをチームオレンジにするという発想だけでなく、チームオレンジの活動の場として活用することも検討できる。</li><li>・認知症カフェで認知症の人のニーズを把握することが可能。その後はニーズとチームオレンジの活動をマッチングする。</li></ul>

# 5. チームオレンジ設置にむけてのヒント

カテゴリー	課題や疑問点など	ヒント
<p>・日中の居場所（デイサービス等）とチームオレンジ</p>	<p>デイサービスの利用者で、囲碁や将棋がしたい、散歩がしたいといったニーズがある。</p>	<p>認知症の人のニーズをチームオレンジにつなぐ。 チームオレンジのメンバーで、ニーズに応えられる人とマッチングする。事業所の了承が得られたら、デイサービスへ行ってご本人の支援が可能。</p>
<p>・認知症の人の参加</p>	<p>認知症の人でもチームの一員として参加している（認知症の人の社会参加）がチームオレンジの要件になっているが、参加可能な認知症の人が見つからない。</p>	<p>・チームオレンジとは、チームの中に支援する認知症の人を含む、と位置付けられている。 そういったことから考えると、認知症カフェやデイサービス利用の認知症の人のニーズを把握した関係者が、チームオレンジにつないで、メンバーが認知症の人の居場所を訪問して支援するということも可能ではないか。 大切なことは、認知症の人のニーズを把握して、ニーズとチームオレンジの活動がマッチングされていることである。</p>
<p>・チームオレンジの良さ、強み</p>	<p>サービス利用を断る認知症の人がいる。家族も困っている。認知症初期集中支援チームやケアマネージャーに相談が入る。チームオレンジにつないでも良いか。</p>	<p>認知症の人の多様なニーズに応えることが出来ることがチームオレンジの強みである。</p>

# 5. チームオレンジ設置にむけてのヒント

カテゴリー	課題や疑問点など	ヒント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防事業はじめ他事業との連携</li> </ul>	<p>チームオレンジのメンバーに、介護予防事業や、認知症カフェ等の事業でサポートをしてもらう。</p>	<p>通いの場などに来なくなった人への支援も、チームオレンジにつなぐことが可能と考える。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主治医との連携</li> <li>・活動の周知</li> </ul>	<p>認知症と診断を受けた後、サービスにつながるまでの空白の期間がある。服薬はしているが、孤立していく事例もある。診断後から早期に、地域の居場所や認知症の人が社会参加できる場とつながれると良い。</p>	<p>かかりつけ医やサポート医など主治医と連携する。主治医にチームオレンジの活動を知ってもらい、認知症の人や家族をつなげてもらえると良い。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や他機関との連携</li> </ul>	<p>企業の参加があれば、支援出来る場や、内容も広がる。 企業の社会貢献にもなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成の協力機関となっている企業（銀行、JA、わたせい、生命保険会社、セブンイレブンなど）がある。</li> <li>・企業の社会貢献として、認知症の人のニーズや、どういうことで困っているのかに対して、企業が協力してもらえる部分をチームオレンジと協働してもらえると良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の周知</li> </ul>	<p>認知症フレンドリー宣言をする市町もある。しかし、チームオレンジの活動等を知っているか聞くと、あまり周知されていないと感じる。 活動内容は関係者の中でしか、周知されていないのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の普及啓発とともに、チームオレンジの活動を、住民はじめ多機関（企業、医療機関など）に広く発信していくことが大切である。</li> <li>・協力してくれる関係機関を増やすことにもつながる。</li> </ul>



## 5. 三重県オレンジ・チューター派遣制度 ～県のチームオレンジ設置支援～

### 【三重県オレンジ・チューターの役割】

- ① 認知症の人や家族の困りごとの支援ニーズと  
認知症サポーターをつなげる仕組み「チームオレンジ」の**構築支援**  
(助言、研修会講師等)
- ② チームオレンジの**資質向上支援** (助言、研修会講師等)

三重県  
オレンジチューター  
7名

○県では、チームオレンジ設置等に向け、  
依頼のあった市町へオレンジ・チューターを派遣しています。

→令和4年度 **4市町** (津市、鈴鹿市、松阪市、亀山市) へ  
派遣

#### ※ オレンジ・チューターとは

- 「オレンジ・チューター養成講座」 (全国キャラバン・メイト連絡協議会  
実施) 受講
- チームオレンジコーディネーター研修の講師

# ・ チームオレンジに係る国・県の目標値について

## ○認知症施策推進大綱（KPI）

- ・ 2025（令和7）年
- ・ 全市町村で、本人・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援を繋ぐ仕組み（チームオレンジなど）を整備

## ○三重県「みえ元気プラン」【施策2-3】介護の基盤整備と人材確保

### 【基本事業3：認知症になっても希望を持てる社会づくり】

認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会をめざして、それぞれの地域で本人と家族を支えるため、認知症サポーターや認知症の人によるチームオレンジ等の支援体制を構築するとともに、医療と介護の連携を図り、認知症の予防や診断後の支援等に取り組むなど、「共生」と「予防」を車の両輪として認知症の人本人に寄り添った施策を推進します。

### 【KPI（重要業績評価指標）】

チームオレンジ整備市町数を令和8年度29市町に設置

- ➔ 認知症の人やその家族に対する心理面・生活面の支援等を行うチームを整備した数